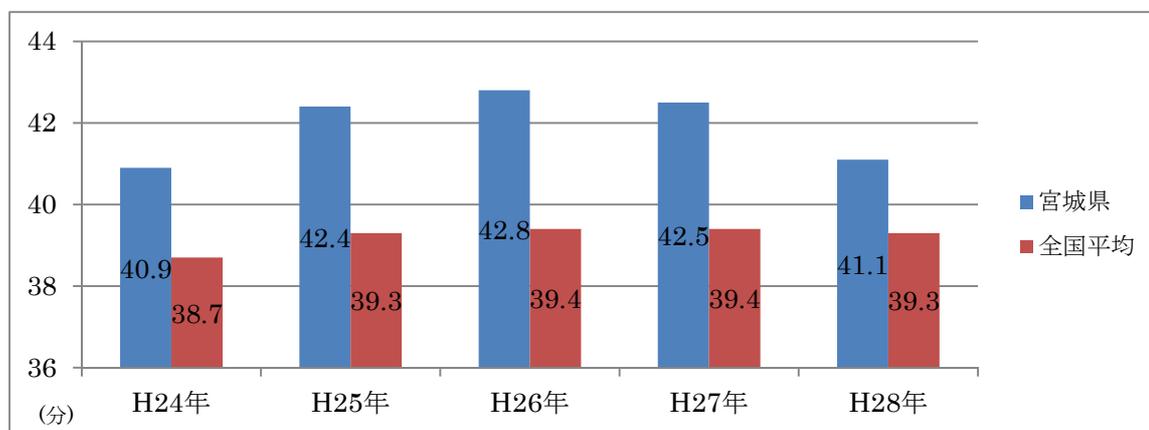


## 宮城県救急搬送情報共有システムの構築について

## 1 課題認識

## ①宮城県の救急搬送時間

○覚知から病院等に収容するのに要した時間



出典 総務省消防庁「救急救助の現況」(暦年)

## ②照会回数・現場滞在時間

○救急隊が医療機関へ受入照会を行った回数のうち、4回以上照会を行った割合(重症以上傷病者)

医療圏	仙南	仙台	大崎・栗原	石巻・登米・気仙沼	全県	全国
H28	5.1%	5.2%	3.8%	0.7%	4.2%	2.3%
H27	5.3%	9.8%	3.6%	0.9%	6.7%	2.7%

○現場滞在時間30分以上の割合(重症以上傷病者)

医療圏	仙南	仙台	大崎・栗原	石巻・登米・気仙沼	全県	全国
H28	6.5%	10.1%	7.6%	4.6%	8.5%	5.0%
H27	7.0%	14.3%	9.1%	4.3%	10.9%	5.2%

出典 県消防課、総務省消防庁「平成 27(28)年中の救急搬送における医療機関の受入状況等実態調査の結果」

## ③宮城県救急医療情報システム(応需情報提供機能)の利用状況

○施設別応需照会件数

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
医療機関等	7,841	6,680	6,408	5,400	4,584	4,669	6,444
消防本部	7,569	5,881	5,300	4,963	4,629	5,069	4,317
計	15,410	12,561	11,708	10,363	9,213	9,738	10,761

※H29年度は特定の医療機関の利用が増加したため、件数が伸びている。

④仙台市消防局が独自のシステムを導入しており、県内に互換性のない2つのシステムが併存している。

## 2 検討経過

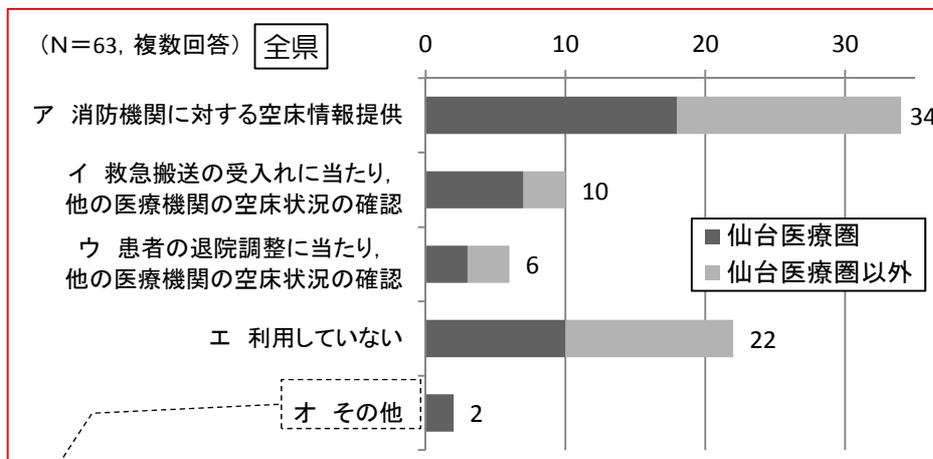
### (1) 経過

時期	概要
平成27年9～10月	消防本部へのヒアリング, 救急告示医療機関へのアンケート調査の実施
平成28年1・7・10月	仙台医療圏における救急医療検討部会
平成28年10月	宮城県救急医療協議会

### (2) アンケート結果・主な意見

#### 【アンケート結果】

#### ○利用目的について



#### ○その他の回答

- ・他医療機関の当番診療科の把握
- ・災害時

#### 【検討部会】

○仙台市近隣の消防本部の収容困難事例等が回ってくる 경우가多く、実際には救急車を2台、3台受けていても、仙台市のシステムには全く上がってこないのが、近隣の消防本部を入れて仙台市と共有してもらおうと、実働状況が伝わる。

○現場の隊員に負担がかからないようにしていただきたい。

#### 【救急医療協議会】

○仙台市消防局のシステムは、消防の動きを見る分にはいい。

○消防から情報を発信して各医療機関が情報を受け取れるかたちにしていただきたい。

○管轄消防本部が見ていないということなので、現行のシステムの入力はやっていない。

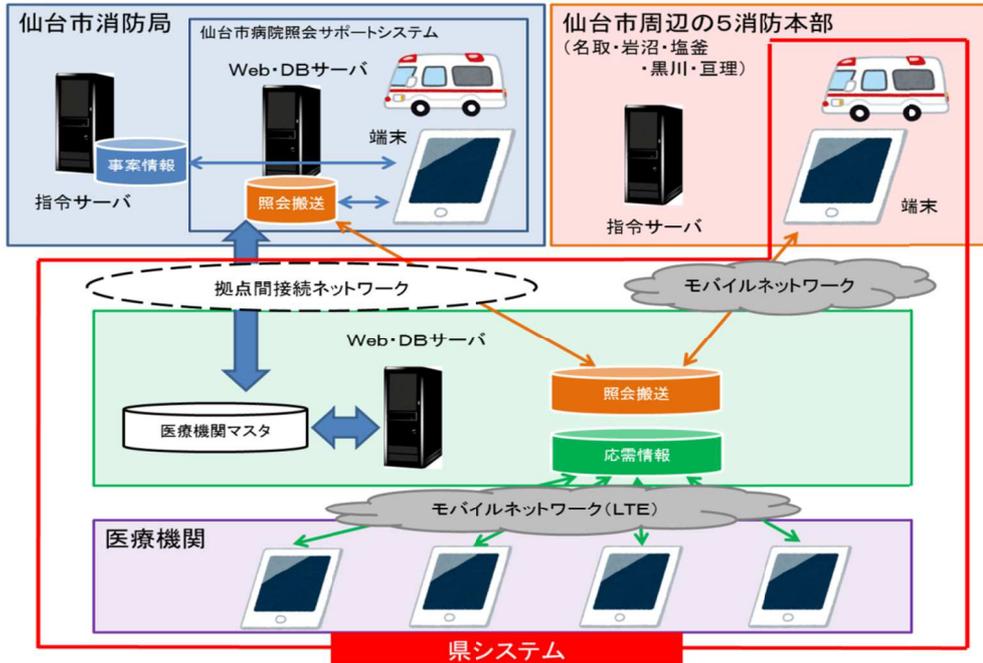
○仙台医療圏の仙台市消防局以外の他の消防本部に展開していけばいいと思うので、県全体で、経費をかけて実施する必要はない。

⇒以上の課題認識及び意見に直接アプローチするシステム構築を検討

### 3 システムの概要

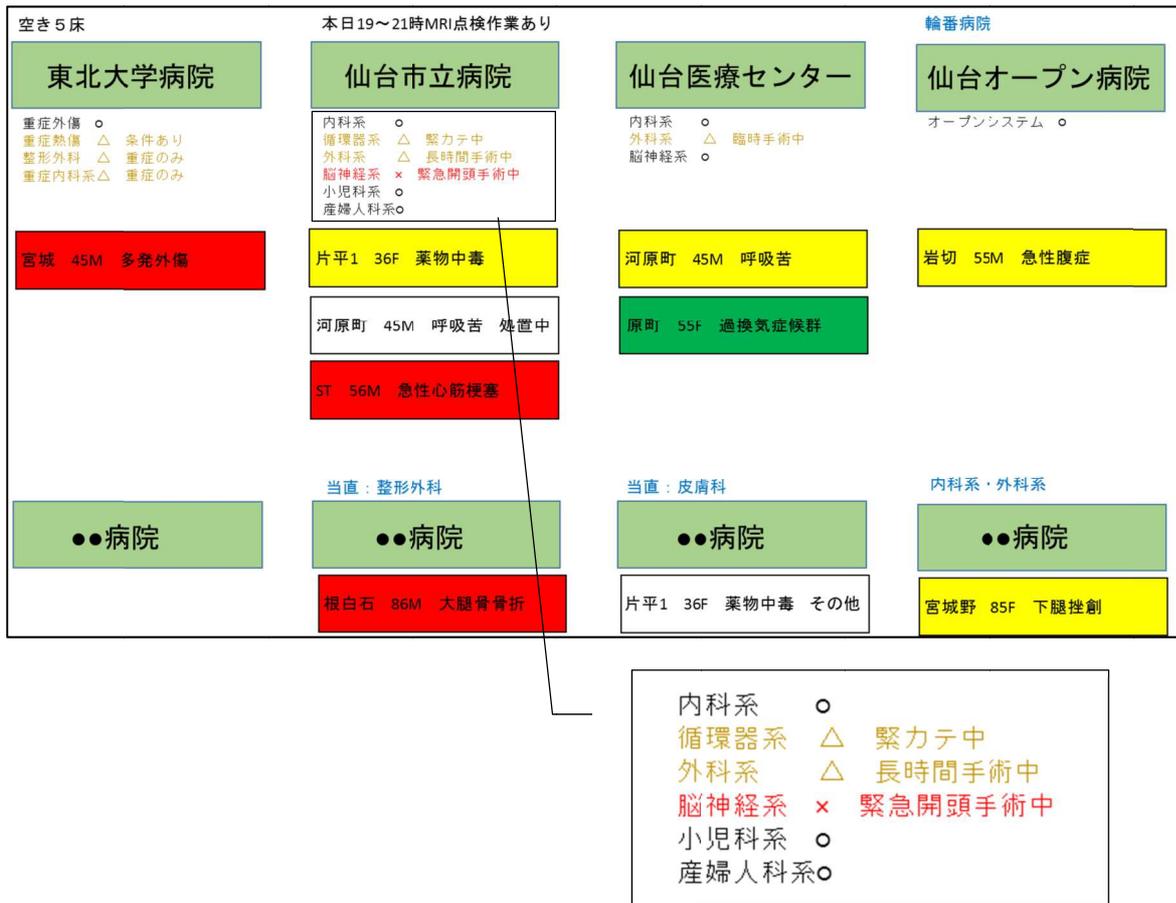
- ①「仙台市病院照会サポートシステム」と同機能のシステムを導入し、情報連携を図る。
  - ただし、現行の救急医療情報システムとの連携はネットワーク環境の違いから接続できない。
  - 専用のネットワーク構築が必要であり、情報共有には専用の端末が必要。
- ②救急隊の搬送情報及び医療機関の応需情報を一元化
  - 救急隊による搬送情報（照会した病院、搬送の有無等）のリアルタイムの入力で、圏域内の搬送状況を一元化。
- ③医療機関にもタブレットを配備
  - 医療機関側の入力及び情報共有のための端末を配備。
  - 配付する医療機関は仙台医療圏内の23医療機関
- ④シンプルな機能及び入力負担を最低限に
  - シンプルな機能及びタブレット端末を活かした簡単な操作で情報入力可能なシステムとすることで、入力頻度の増加を期待。
- ⑤仙台医療圏での導入
  - 照会回数及び現場滞在時間が長く、仙台市内の医療機関へ搬送することも多い仙台医療圏で、仙台市病院照会システムと同機能のシステムを導入。
  - 現行の搬送先選定のプロセスは変わらないため、本システムの円滑な定着を期待。

《システム概念図》



《メイン画面イメージ図》

○救急隊の色分け 赤：重症，黄：中等症，緑：軽症，白：搬送不可



4 スケジュール

- 平成30年6～7月 本システムへ参画する（端末を配付する）消防・医療機関への説明
- 10月 公募型プロポーザル方式によるシステム構築事業者の決定
- 平成31年 1月 参画医療機関情報調整（診療科目の設定など）
- 3月 システム利用に向けた救急隊及び医療機関研修
- 同月 仮運用（運用訓練期間）
- 同年 4月 稼働開始

5 効果検証について

事業の効果について、照会回数及び現場滞在時間を指標とし、本システムの運用などを検証する会議体（想定）で検証を行う。

○照会回数及び現場滞在時間

	重症以上傷病者搬送事案	
	照会回数4回以上	現場滞在時間30分以上
宮城県	4.2%	8.5%
全国	2.3%	5.0%

出典：消防庁「平成28年中の救急搬送における医療機関の受入れ状況実態調査の結果」